

緩和ケア科

診 療

平成18年4月に20床の緩和ケア病棟を開設し以下の理念と基本方針の基に運営している。

【理念】

患者さんが尊厳を持ってその人らしい生活を送ることができるように支援します。

【基本方針】

1. 苦痛症状の緩和に努め、生活の質(QOL)の向上に向けて最善を尽くします。
2. 患者さんの意思を尊重し、患者さんや家族の思いに沿った医療・看護を行います。
3. 患者さんが自分らしく生きたいという願いを大切にします。
4. 患者さんや家族を、医療スタッフがチームとしてサポートします。

がん対策推進基本計画では、「治療の初期段階からの緩和ケアの実施」が重点的の取り組むべき課題として位置付けられ、がん患者とその家族が可能な限り質の高い療養生活を送れるよう、身体症状の緩和や精神心理的な問題への援助などが、治療の初期段階から積極的な治療と並行して行われることが求められている。当院の緩和ケア病棟においても終末期だけでなく、早期から緩和ケアを提供できるよう以下の入院を受け入れている。

【緩和ケア病棟への3つの入院】

1. 痛みなどの症状コントロールのための短期入院
2. 在宅療養患者・家族の休息のための短期入院（レスパイト入院）
3. 看取りのための入院

緩和ケア病棟の病床稼働率、新入院患者数、在宅退院患者数の推移を示す（図1，2）。

【緩和ケアへの取り組み】

平成20年11月より、がん患者さんが病気と共に自分らしく生きることが支えるために、名古屋大学大学院医学系研究科と共同で「緩和ケア」の運営をはじめた。緩和ケアは日本では未だ普及しておらず、今後切れ目のないがん診療の実現と在宅患者の支援のために必要な取り組みと考えている。

抱負

緩和ケア病棟を開設し3年が経過した。今後も個々の患者にあわせた質の高い緩和ケアが提供できるように努力するとともに、より早期から緩和ケアが提供できるように、多職種が協同する「がんサポートチーム」を設置し、病院全体での緩和ケア提供体制の整備に取り組んでいく。

また住み慣れた家で安心して療養できるように、地域の関係機関との連携を強化し、地域の中で必要とされる役割を果たせるよう努力する。



